

2020年06月04日

各位

会社名 ピジョン株式会社  
 代表者名 代表取締役社長  
 北澤 憲政  
 (コード番号：7956 東証第1部)  
 問合せ先 執行役員経営戦略本部長  
 田窪 伸郎 (03-3661-4204)

### 通期連結業績予想に関するお知らせ

当社は、2020年2月13日（木）に公表した2020年12月期(2020年1月1日～2020年12月31日)の業績予想について、下記の通り修正することといたしましたので、お知らせします。

#### 1. 2020年12月期 通期連結業績予想数値の修正（2020年1月1日～2020年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益
前回発表予想 (A)	百万円 109,000	百万円 18,100	百万円 18,100
今回修正予想 (B)	98,500～102,400	13,400～15,500	13,900～16,000
増減額 (B - A)	▲10,500～▲6,600	▲4,700～▲2,600	▲4,200～▲2,100
増減率 (%)	▲9.6～▲6.1	▲26.0～▲14.4	▲23.2～▲11.6
【参考】前期実績 2019年12月期*	100,017	17,072	17,284

	親株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 12,600	円 銭 105.23
今回修正予想 (B)	9,600～10,900	80.17～91.03
増減額 (B - A)	▲3,000～▲1,700	▲25.05～▲14.20
増減率 (%)	▲23.8～▲13.5	▲23.8～▲13.5
【参考】前期実績 2019年12月期*	11,538	96.37

\*2019年12月期に決算期を変更し、経過期間となる2019年12月期は2019年2月1日から2019年12月31日までの11ヶ月間を連結対象期間としています。

(2ページ目につづく)

## 2. 修正の主な理由

日本国内および世界各国での新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な流行は、現時点においても先行きは不透明であり、今後の動向や当社グループの業績に与える影響額の算定は非常に困難な状況であります。しかしながら、当社が2020年2月13日(木)に発表した「2020年12月期通期連結業績予想」の中では、新型コロナウイルス感染症がこれほどまでに世界規模で流行し、数か月にもわたって世界経済の悪化、企業活動の停滞、個人の生活への深刻な影響を招く事態は織り込んでおりません。

当社グループの2020年12月期第1四半期累計期間におきましては、売上高は228億36百万円(前年同期比10.3%減)となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界的な経済活動の落ち込みが見られ、日本事業においては、2月以降、日本国内で大規模なイベントの中止や小売店の営業時間短縮・臨時休業、それに伴う消費者の外出自粛などで消費への影響が開始しました。さらに訪日外国人旅行者数が大幅に減少した事で、インバウンド需要の急速な減速も見られました。中国事業では、1月後半から中小型小売店の多くが一時的に閉鎖、政府による省をまたぐ物流の停止や、医療品・生活必需品の物流を最優先とする対応がとられました。その結果、主要都市における物流機能が平時とは全く異なる状況になり、現地代理店および小売店への当社商品の配送に遅れが生じました。その他の海外生産拠点や販売先各国においても、企業活動の部分的停止や外出制限等により、影響が生じております。

4月以降、当社の重点市場である中国では回復の兆しが見られましたが、新型コロナウイルス感染症によるこのような影響は、第1四半期連結累計期間以降も世界各国で続く事が予想されるため、本日時点で、ピジョングループが入手可能な情報に基づき、業績予想を上記の通り算出いたしました。

上限のレンジについては、2020年下半期の早い段階で、各国におけるCOVID-19の流行が収束し、それに伴って企業活動や経済活動、個人消費が直ちに回復基調となった場合の予想数値です。下限のレンジについては、当社が事業を行う国や地域において、2020年後半までCOVID-19の感染が拡大、または流行が収束に向かってもなお、現在のように企業活動や経済活動、個人消費が停滞し続けた場合の数値です。

なお、2020年12月期通期の業績に与える影響については現在も精査中です。開示すべき事項が発生した場合は、速やかに公表いたします。

(注) 上記業績予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき算出、作成したものであり、今後の様々な要因の変化により、実際の業績は予想数値とは異なる可能性があります。

以上